



安川 加寿子

兵庫県に生れ、間もな々渡仏。幼少の頃より、ピアノの手ほどきを母堂から受けた。昭和8年(10才)パリ国立音楽院予備科入学、ピアノ科教授ラザール・レヴィ氏に師事。その後本科進学。

昭和12年1等賞首位を得て、パリ国立音楽院を卒業。

昭和14年パリ国際婦人ピアノ・コンクールは第1位入賞。その間(昭和12年~14年)パリ、ベルリン、スペイン等で演奏会を開催し、大好評を博した。

昭和16年帰国。

昭和22年芸術祭で文部大臣賞、昭和28年毎日音楽賞を受賞した。

一方昭和21年東京音楽学校(現芸大)教授となり、田中希代子、金沢桂子、井上二葉、奥村洋子、高良芳枝、山岡優子、高野耀子、館野泉といった優秀なピアニストを世に送り出している。

モーツァルト、シューマン、ショパンを始めフォーレ、ドビッシェ、ラベルといったフランス近代、現代音楽等広汎なレパートリーを持つ外、近年は邦人作品にも力を入れてその紹介につとめている。

またメトードローズ・ピアノのテクニック ABC、ピアノ小曲集、フランスピアノ音楽(コルトー)等と著訳書も多い。

現在芸術大学ピアノ科主任教授。日本ビクター専属。